

# AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

## TOP INTERVIEW

株式会社秋田住宅流通センター  
代表取締役社長 北嶋 暢哉氏

1962年(昭和37)3月生まれ。父親の転勤に伴い小・中学生時には幾多の転校を経験。秋田高校卒業後、秋田大学教育学部入学。1984年(昭和59)男鹿市立船越小学校教諭を任命。2015年(平成27)3月に秋田市立下浜中学校教頭を持って31年間の教職を辞し、同年4月に株式会社秋田住宅流通センターへ入社。以来、宅地建物取引士、賃貸不動産経営管理士、ブランド・マネージャー認定協会トレーナー&コンサルタントなど業務に関する資格を取得。2018年(平成30)9月に代表取締役社長に就任。グループ企業の株式会社あきたタウン情報、株式会社あきたマネジメントサポート、株式会社秋田ピーシーイー、株式会社秋田ウェブコンテンツの代表取締役も務め、現在に至る。柔道六段でもある。

## 「感謝の輪」を大切に 社会と向き合っていきたい

**工藤** 宜しくお願いたします。早速ですが北嶋社長のご出身はどちらでしょう？

**北嶋** 生まれは角館です。父の転勤が多く、鷹巣小学校に入学し、大曲小学校を卒業。大曲中学校に入学し、山形第二中学校を卒業。山形南高に入学し、秋田高校を卒業。その後秋田大学に入学し卒業後は小学校で3年、中学校で27年教員をしました。途中で県庁に1年間修行に出されました。笑。54歳で退職し秋田住宅流通センターに入社しました。

**工藤** 学校の先生とはまた異色の経歴ですね。では家業を継ぐためにご退職を？

**北嶋** 微妙ですね。父も銀行勤務の後67歳の時に入社し社長になった人物なので、家業を継ぐという感覚はなかったです。呼ばれたといえばそうなのでしょう？ 当時はもの好きだなという感じで見ていました。笑。

**工藤** なるほど。名刺を拝見するとグループとしてはいくつか会社がありますね。

**北嶋** グループ会社にはあきたタウン情報、他にも経理や総務などの業務をしている会社や収納代行業の会社もあります。

**工藤** なるほど。ちなみに社長になられてからは何年位になりますか？

**北嶋** 4年です。入社1年目の途中から専務を務めて、約3年後に社長に就任しました。

**工藤** 色々やられている中でも、本業は不動産業と思いますが、コロナや物価高騰など昨今の社会環境で、とりわけ社業に大きな影響を及ぼした事象などはございますか？

**北嶋** 我々のメイン事業はオーナーさんからお預かりしているアパート等の不動産管理業務と、入居者対応となります。秋田市全体ではコロナ禍において約2000世帯の増となりました。ですから幸い本業の収益に大きなマイナス影響はありませんでした。ただテレワークなどのお仕事を在宅でされるケースも増え、騒音問題などに対するクレーム対応などが増えました。少子高齢化により引き続き自然減ではありますが、今は報道等でもあるように若干社会増傾向にあります。コロナ終息への期待感も高まっていますので、今後は更に首都圏から地方への流れが加速するの？ 或いはやはり首都圏に戻ってしまうのか、今後が気になるところです。

**工藤** そうですね。地方を事業活動拠点にする経済的メリットが高い業種や職種もたくさんありますので、更なる増加を期待したいところですね。あきたタウン情報さんはいかがですか？

**北嶋** コロナ禍ではテイクアウトの特集、少し落ち着いてからはレジャー特集など、その都度動きや期待感の高いものにフォーカスして対応してきました。

**工藤** 飲食店に行くのも少し躊躇した時期、遠くに行けないけれど、近場で出かけよう！とか、約3年のコロナ禍でも少しずつフェーズにも変化がありましたね。コロナ当初の飲食業界は本当に苦しい時期でしたから…。

**北嶋** そうですね。あきたタウン情報にとって飲食店は大切なパートナーですので、そん

な飲食業界が本当に苦しい状況下で、私たちはどんなお手伝いができるのか？ どうか一緒に盛り上げて頑張りたいという一心から、暮れの飲食特集の広告料をいただくに掲載することもいたしました。

**工藤** 無料ですか!？ それは飲食店にとってはありがたい話ですね。困ったときはお互い様ですが、きっとあきたタウン情報さんに感謝している飲食店も多いでしょうね。今後はどのような経営展望をお持ちですか？

**北嶋** 今工藤さんからも「感謝」という言葉が出ましたが、弊社の理念に「感謝の輪」という言葉を大きく掲げています。まずはそこを軸に展開したいと思っています。これは一昨年12月に私がつくったものですが、元々私が小さい頃から父である会長から教えられてきたことを、どう言葉にしたらよいかを考えてつくり上げたものです。私達はグループを通して、暮らし中にある衣食住、子育てから相続まで、人生の全てをサービス対象として、常に社会貢献をしながら仕事をしていますので、もっともっと地域との結び付きを強くできるような事業展開をしていきたいです。例えば高齢化社会に寄り添う対応はそのひとつです。高齢者は病気やケガ極端には死亡などのリスクがあります。ですから支援や見守りサービスなどを充実させていくことが重要だと感じています。生活保護受給者など経済的に困っている方への対応についても行政とのやり取りなどを深めていきたいと思って

あきたBizフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

います。一般的に不動産事業者としてはあまり積極的になりにくい分野ですが、わが社としては積極的にやっていくべき事案だと考えております。最近社内でも共通理解が強まりプロジェクトチームも立ち上がりました。また空き家問題もその一つですが、現在秋田を離れている相続者等から「実家(空き家)の未来」についての相談が増えています。

**工藤** 確かに実家の未来を描けていない方は多い印象です。この家って管理大丈夫？ みたいな家も見かけます。空き家管理についてはどう対応していけばよいのでしょうか？

**北嶋** 現在弊社でも空き家管理を何棟かしており、定期巡回や軽清掃等をしています。ご両親が亡くなられたり施設に入ったりという事情に加え、特に最近ではコロナで秋田に帰れないから見てほしいというご依頼も多いです。毎月巡回レポートで送り、依頼があれば修繕なども手配し対応しています。

**工藤** なるほど既にニーズは顕在化していますね。私もつい最近、空き家を大学生向けのシェアハウスにした郊外の一軒家にお邪魔してきました。オーナーの所有農地で簡単なお手伝いをする代わりに、大学生は安価な家賃プラス米と野菜のお裾分け付きで生活していて学生らはすごく楽しそうでした。

**北嶋** オーナーさんにとっては郊外の古い一軒家でも家賃収入が入り、県外の学生にとってはリーズナブルに秋田の田舎暮らしを

体感できる! Win-Winな空き家活用方法のひとつですね。中々空き家利活用事業はまだ大きな収益にはつながりにくいですが、秋田の重要な社会課題の一つとして絶対に取り組みなければならぬことと思っています。

**工藤** 話は変わりますが、たまに「秋田には何もない」とおっしゃる方もいますが、私はそんなことは絶対違うと思っています。あきたタウン情報本誌や、温泉本やラーメン本を読むだけで行きたいところだらけですし、私も特に移住当初は大変お世話になりました。

**北嶋** ありがとうございます。是非たくさんの方に秋田の良さを知っていただきたいですね。そういえば去年男鹿特集を出したときに、それを見て男鹿に移住された方がいると男鹿市役所の方からご連絡をいただき、それはとても嬉しかったです。

**工藤** 素晴らしいですね! 一方で秋田の起業家輩出率はまだまだ全国ワーストランクから脱出できていないのですが、社長から見ると秋田で起業するメリットや事業を行うメリットとなどがあればぜひお聞かせください。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター J-MOTHERS 藤田幸

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

**北嶋** 前に他県のIT系企業の方が秋田に来て起業された際、秋田の方は真面目で優秀だからそういう地域で起業したいと思った。とおっしゃっていました。秋田にはそういう県民性の良さがあるのかなと。一言でいえば「優しい県民性」といえるのでしょうか？

**工藤** 騙すとか騙されるとか少ない環境は経営もしやすいということになりますね。優しい県民性。土地の豊かさや災害の少なさなどの影響が、秋田の人の優しさを育ててくれているのかもしれない。私も秋田県民の優しさ感謝している移住組一人です。

## 学びは一生、今は学ぶことが本当に楽しい

会社としての企業はどうあるべきか? 経営者はどうあるべきか? などまだまだ学ばなければいけないとされていることが多く、仕事以外の時間もほとんどそれに時間を費やしているという北嶋社長。未だに全部が新鮮で、学ぶこと、仕事がとにかく楽しいと笑顔でおっしゃっていたのが印象的でした。

